

坂本義和と永井陽之助 一戦後日本の国際政治学における「現実主義」の一側面（仮）

関西学院大学

法学研究科

弘田 忠史

1. はじめに
 - 1.1 戦後外交論壇の「理想主義」と「現実主義」論争における坂本義和と永井陽之助
2. 政治学者としての原点
 - 2.1. 冷戦の進展と多極化のなかで
 - 2.2. 坂本義和
 - 2.3. 永井陽之助
3. 「中立」という「現実主義」—坂本義和
 - 3.1. 「中立日本の防衛構想」：中立論と国連警察軍という選択
4. 国際秩序という「平和」—永井陽之助
 - 4.1. 『平和の代償』：安全と独立という二律背反のなかでの「拘束と選択」
5. 「権力政治」を見据えて
 - 5.1. 共通性と相違